

会議概要

会議の名称	佐倉市上下水道ビジョンの策定及び料金等の在り方に関する懇話会
開催日時	平成27年8月18日(火) 午後2時30分から午後4時30分
開催場所	佐倉市役所 議会棟2階 第4委員会室
出席委員	三枝康雄委員（会長）、上田節子委員（副会長）、松井強委員、宮田年康委員、柳川由美子委員、山内久委員
事務局	立田上下水道部長、小川事業管理課長、古作事業管理課主幹、小川事業管理課副主幹、栗原事業管理課副主幹、松田事業管理課主事
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 議事 <ol style="list-style-type: none"> (1) 佐倉市上下水道ビジョン策定のための水道・下水道アンケート集計結果について (2) 水道事業・下水道事業の課題と上下水道ビジョン体系案について 3. その他
配布資料	<p>第3回懇話会次第</p> <p>議題説明資料：①佐倉市上下水道ビジョン策定のための水道・下水道アンケート集計結果について</p> <p>①-1佐倉市上下水道ビジョン策定のための水道・下水道アンケート概要及び設問意図</p> <p>②水道事業・下水道事業の課題と上下水道ビジョン体系案について</p> <p>③水道に関するお客さま意識調査（横浜市水道局）（平成26年9月）</p> <p>④参考資料：佐倉市上下水道ビジョン策定のための水道・下水道アンケート（調査票）</p>
会議の公開又は非公開	公開（傍聴者2名）

佐倉市上下水道ビジョンの策定及び料金等の在り方に関する懇話会 要録

発言者	会議のてん末・概要
会長	<p>1. 開会 (略)</p> <p>2. 議事 議題 (1)「佐倉市上下水道ビジョン策定のための水道・下水道アンケート集計結果について」事務局からの説明をお願いする。</p>
事務局	<p>議題1「佐倉市上下水道ビジョン策定のための水道・下水道アンケート集計結果について」について説明。</p>
会長	<p>事務局の説明に対し、各委員の質問、意見を順にいただきたい。</p>
委員	<p>佐倉市の水道水がおいしいとの回答が全体の半数である。横浜市アンケートでは、同様の設問に対し同程度の回答率にとどまっているため、残念に感じている。私は 23 年前に他自治体から佐倉市に転居してきているが、転居前の自治体と比較して佐倉市の水道水はおいしいという印象を受けている。市側はこの結果をどのように受け止めているか。</p>
事務局	<p>水道水の味は感覚的なものであり、住み慣れた土地における飲みなれた水の味がおいしいと感じるなど、人によって評価がまちまちになってしまう面もある。そのような感覚的な評価も反映されて、今回のアンケート結果になっているものと捉えている。</p>
事務局	<p>地下水と比較して徐々に表流水の割合が高くなってきている。佐倉市では昭和 60 年から表流水を使用しており、それ以前は地下水のみを用いてきた。地下水のみを用いていた時期と比較して水道水がおいしくなくなったと感じている回答者もいるかもしれない。また、より冷たい水ほどおいしく感じることもあり、水の温度も回答に影響しているかもしれない。佐倉市は、地下水を多く使っており、ミネラル等の成分も多く含んでおり、水質的には、良いものであると考えている。</p>
事務局	<p>過去 (25 年前) には、東京から引っ越しをされた方から佐倉の水はまずいと言われたことがある。やはり、飲みなれた水であることや地下水の特徴 (硬さ等) など、水のおいしさは、感覚的なもので、個人差もある。また最近では高度処理技術が進み、表流水についても味がおいしくなってきた。</p>

	<p>ていると考えている。</p>
委員	<p>高度処理はしているのか。</p>
事務局	<p>印旛沼の水については高度処理が行われているが、利根川の水についてはまだそれが行われていない。印旛沼と利根川の水を佐倉市では受水しており、どちらの水が強くなるかはなんともいえないが、高度処理を行うと臭いが抑えられる点が特徴である。</p>
委員	<p>佐倉市の水は、地下水と表流水の混合と伺っているので、それをみれば地下水の比率が高いことから、おいしい、と考えられる。</p>
委員	<p>回答者の住居形式についてみると、直結給水方式の一戸建ての割合が高くなってはいたが、それも大きな要素ではないかと考える。集合住宅等で水が貯水槽で貯留されている方式は、地震等が起こった時の備蓄面等で多少はよいかもしれないが、おいしさでは劣るかもしれない。</p>
副会長	<p>佐倉市の水道・下水道の料金についてですが、アンケートでは、高いとの結果である。しかし、近隣の事業者との比較では、高いとは言えず、こうした結果は、残念なことである。その点については、積極的に広報し、市民の誤解を解いていく必要があるのではないかと。そのためには、大きくPRする以外にも、広報などにおいて堅苦しい表現ではなく、ポイントを絞ってPRするのもよいのではないかと。</p>
事務局	<p>今後については、佐倉市の料金がどの程度にあるのか、お知らせしていく必要があると考えている。しかし、他市町村との料金比較は、(事業者ごとに建設コストも異なり) 広報の方法などについては、難しい面もある。</p>
委員	<p>今回これだけのアンケートを実施したのだから、回答や意見については、しっかりお知らせし、その結果をフィードバックしていかなければならない、と考える。</p>
事務局	<p>ホームページの中では、佐倉市の水道料金は県内でこの程度、ということをお知らせしているが、紙面という形ではない。今後は、水道・下水道の料金とともに、水道水ができるまでの過程や水の貴重性なども含めて、お知らせしていきたい。そうしたことをお知らせすることで、料金への理解も深まると考える。</p>

副会長	<p>広報手段については、インターネットなど電子媒体の場合には操作に不慣れな市民もいると考えられるので、高齢者の方にもわかりやすいように、広報というものも大事にしていきたい。</p>
委員	<p>水道・下水道事業の実態などについては、市内の公民館等で実施している生涯学習の講座等で取り上げていければ、効果的な PR になるのではないか。今回のアンケートは、横浜市で先に実施されたアンケートのフォーマットを用いて作成にあたったのか。</p>
事務局	<p>今回のアンケートは、佐倉市が独自に実施したものである。横浜市のアンケートについては、今回の懇話会資料を作成する際に設問項目等が似通っていたので、横浜市のご了解をいただき参考資料を作成した。</p>
委員	<p>文章表現についての確認であるが、佐倉市のアンケートでは上下水道サービスという表現が用いられているのに対し、横浜市のアンケートでは上下水道事業という表現が用いられているが、これはどのような意図で使い分けたのか。</p>
事務局	<p>受けて側の消費者からみると上下水道サービス、提供側の事業体からみると上下水道事業に区分されるものと捉えている。つまり事業実施によってサービスを提供する形。市民からすると、上下水道サービスのほうが受け入れやすいのではないかと考えている。</p>
会長	<p>個人的には、上下水道サービスという表現の方が当てはまりは良いように感じる。</p>
事務局	<p>料金はサービスの対価として、市民から支払われるものであると考えている。例えば、水道事業におけるサービスは、蛇口をひねれば常に水が出るという水圧であると考えおり、やはりサービスとして考えた方がよいと考える。</p>
委員	<p>料金に関しては、電気やガスとは異なり、1回で2ヵ月分の料金を徴収しているため、市民が高い負担感を感じているのではないか。しかし、一方では、ペットボトルを購入し、蛇口から水を飲む市民の方々が少なくなってきた。ある意味矛盾しているが、水道水自体は決して高いものではないことをもっとPRすべきではないか。料金以外では、備蓄の話が出たが、災害時にトイレの排水が出ないことは困ることであり、その時にどのように対応すべきか重要な点である。そのような状況に備えるためにも、</p>

	飲料水以外の備蓄も進めるべきではないか。
会長	市民向けのアンケートとしては、回収率が 49.0%と高い率となっており、水道・下水道に対する関心の高さが反映されているとうかがえる。料金が高いと感じる理由などについては、年齢別や性別でクロス集計を行ってみることが望まれる。水道サービスに対する不満点として、水道水の安全性に不安があるとの回答が多くなっているが、思いあたることはあるか。
事務局	東日本大震災によって川が汚染されたのではないかと報道が流れたことが影響しているのではないかと考えられる。その当時、私どもは、一部の防災井戸を開設するとともに、給水車で、地下水 100%の水を用意し、ご心配な方や気になる方に水を提供した。当時は、水道水の放射能汚染ということで、かなり報道され、その意識が残る中での回答ではないか、と考えている。
会長	安定した水道・下水道サービスを維持するための対応としては、値上げして対応を進めるとの回答が合わせて 6 割強を占めており、サービス維持のための値上げに対して寛容であるように考えられる。料金改定については、きちんと市民からの理解を得て、納得性の高い PR を行っていく必要があるのではないか。
委員	資料 42 頁の料金徴収に関しての自由記述において、高齢者、若年層からの料金の徴収を徹底してもらいたいとの記述があるが、この点については、これらから徴収できていない事実があるのか。
事務局	そのような事実はない。高齢者に配慮するとか、若年層に配慮するとか、そうしたイメージがあるのかもしれないが、基本的には、お支払いいただけない場合、給水停止となる。現状、経済的に厳しい方には、それなりの猶予を設けているので、その辺はどこまで許容されるか、という問題はある。
会長	それでは、ここで休憩に入らせていただく。再開後に議題 2 に移る。 (休憩)
会長	それでは、議事を再開する。議題 (2)「水道事業・下水道事業の課題と上下水道ビジョン体系案について」事務局からの説明をお願いします。

事務局	議題（２）「水道事業・下水道事業の課題と上下水道ビジョン体系案について」説明。
会長	事務局の説明に対し、各委員の質問、意見を順にいただきたい。
委員	基本理念のキーワードとして、「強靱」が抜けているように感じる。また、厚生労働省の新水道ビジョンによると「持続」は、施設のみならず経営全体まで含めての持続という意味を含んでいる。そのため、持続という言葉には経営的要素も含まれてくるものと捉えている。災害時には水源確保のみならず、災害時の給水確保が重要となるものと考えている。例えば、緊急時用貯水槽を整備する、広域化を推進して近隣市町村と連絡管で水を融通する、などが対策となってくる。水源確保といった場合には、井戸の確保をイメージしてしまう。
事務局	確かに給水といった方が市民には受け入れられやすい側面があるかもしれない。また、国では持続に経営的要素が含まれている点は悩みどころである。
委員	新水道ビジョンが発表された時期と下水道ビジョンが発表された時期の間で水循環基本法ができています。水循環をキーワードに入れている点としては、佐倉市においては上下水道で一体的に事業運営を行っている点の一つのメリットといえるのではないかと考えています。例えば、先ほどアンケートで出た横浜市の場合には、水道局と環境創造局で上下水道事業が別の組織で管轄されていることを勘案すると、佐倉市では水循環という時流に乗った組織体制を確保できている点はよいと考える。上下水道ビジョン策定に当たっては、このような時流を意識した企業コンセプトとすることはよいのではないかと考えています。人材確保は大きなテーマとなってくるが、現実的に庁内での職員確保が難しい場合には新しい担い手が必要となってくる。市民からは、下水道管が管理されていても雨水排水の枡の管理が行き届かないとの苦情が来ると聞いたことがあり、市民連携等により枡の管理をきちんと実行するだけでも浸水を防ぐことが可能であると考えられる。公民連携等については、それによって浸水対策や環境対策など様々な領域に波及するテーマではないかと考えられる。つまり、新たな担い手によって、それらの政策課題をいかにして解消していくかがポイントとなるのではないかと考えられる。
会長	他都市の上下水道ビジョンでは、上下水道一体となったコンセプトが打ち出されているのか。

委員	<p>下水道事業体においては、今後適切に維持管理等を行うことを目的に地方公営企業法を適用する事業体が増加してきている。水道事業体においては、地方公営企業法を当然適用しており、すでに企業会計・複式簿記に則った事業運営が行われているため、下水道事業体と水道事業体で連携する動きがみられる。ただし、水道事業では企業団を設立しているところでは、広域連携がほぼ出来ているところもみられ、下水道事業は取り残されているケースもみられる。政令指定都市についてみると、名古屋市、川崎市、京都市、北九州市などにおいて、上下水道一体となった部署を有している。佐倉市と同規模の事業体においても、上下水道一体となった部署を有しているところもみられ、それらの事業体は今回佐倉市で上下一体のビジョンを策定すると、今後のビジョン作りに当たっての参考とするものと考えられる。</p>
事務局	<p>委員から水道と下水道を一体的に行う意味で水循環を基本方針に取り上げるのは良いことであるのご意見があった。しかし、その一方で、他事業体のビジョンの例では、水道と下水道各々の事業で、基礎的な業務を有していることを勘案し、それぞれ基本方針を策定している例もある。つまり、水道は水道で基本方針を持ち、下水道は下水道で基本方針を持つ、という形である。その上で、水道、下水道の共通事項として災害対策や環境対策などを持ってくるという案もあった。事務局内で議論を進める中で水循環もキーワードとして入れ、基本方針段階で水道と下水道で区別を行わないこととなった。本懇話会においては、そのような点も含めてご意見をいただければと考えている。</p>
会長	<p>このたたき台では、水道と下水道が一つになっていることが、大きな考え方であり、特徴になっている。</p>
委員	<p>水循環基本法ができて監督官庁は、水道は厚生労働省であり、下水道は国土交通省である。国レベルでは、なかなか一体的な施策の取り組みはまだ課題があると思う。しかし、そうした中で、中小自治体レベルで戦略的に、こうした思想を進めていくことは、よいことだと考える。</p>
事務局	<p>佐倉の場合、印旛沼があり、佐倉市が下水道の普及を促進してきたのは、印旛沼の水質浄化ということが背景にある。佐倉市民は今現在、印旛沼の水も飲んでおり、水循環は、理想ではなく切実な問題でもある。現在、両事業を担当する部署になり、きちんと水質管理が行われている印旛沼の水を市民が飲み、排出するという、いわゆる上水から下水までの水循環の視点は重要であると考えます。</p>

委員	東日本大震災時には佐倉市でも大きな断水が起きたのか。
事務局	市内の半分が断水した。印旛沼広域水道用水からの受水が絶たれてしまった上に、停電によって井戸が汲めなくなり、給水が止まってしまった。これらは、地震の起きた次の日に生じたこともあって、問合せ等が多くなってしまった側面がある。
委員	上下水道ビジョンの基本施策にエネルギー関係の事があまり掲載されていない。佐倉市の下水道事業は、最終処理場を保有していないことも影響しているとは考えられるが、太陽光とか、遊休地を活用した施策とか、何らかの計画等が策定されているのであれば、可能な範囲で太陽光エネルギー等に係る項目を追記してもよいのではないかと考えられるため、あくまで可能な範囲での取組は追記できないものか。
事務局	太陽光発電は、費用対効果が出にくい点（電気の売電価格より買った方が安くなる）や太陽光発電で浄水場の全ての施設を稼働させるとなると相当の設備が必要となってくる点もあり、採算性を確保することがなかなか難しい。当市でとった停電対策は、電源の二系統化と水源用（井戸用）の非常用発電機を導入した。また、小水力発電については、用水供給事業からの給水水圧を利用しているものがほとんどらしいが、佐倉市ではその採用もなかなか難しいと考えている。
事務局	再生可能エネルギーについては、環境対策の中で良い案があれば施策の下の事業として位置付けたいと考えている。
委員	枅に付着している落ち葉を取り除くことなどは、住民にもできる簡単な作業であるので、市民が参加できるような取組案についても何か広報していただきたい。また、資料の中で挙げられている基本施策の中で特に重要な案件は何か教えていただきたい。
事務局	現在のところ、経営という視点でお客様との信頼関係を掲げているが、市民と協働した取組といった視点が抜けてしまっている。経営という視点とは離れて市民との協働についても、検討していきたいと思う。重点施策については、次回の懇話会においては、16の基本施策の中で重点施策等については強調し、メリハリを付けて示したいと考えている。
事務局	官民連携は、備蓄なども大きく関係する。災害時の備蓄は、市民と協力、

	連携して取り組んでいくことが重要であると考えている。
委員	災害時における備蓄の確保等に向けて、近隣の事業体と連携していることはあるのか。
事務局	近隣の事業体とは協定を締結し、対応している。
委員	佐倉市の管の中には、アスベスト管や鉛管はあるのか。
事務局	石綿セメント管と鉛管の更新は全て終了し、今は使用していない。現在は、比較的小さい管にはポリエチレン管を用いており、比較的大きい管にはダクタイル鋳鉄管を使用している。
委員	現在提示されているキーワードを全て盛り込んだ経営理念を策定するのは難しいのではないかと。
事務局	イメージとしては、基本施策を包括するような当てはまりのよいキャッチフレーズができればよいと考えている。そのようなアイデアがあれば、よいと考えている。
会長	キャッチフレーズにキーワードが全て入っている、ということではなく、様々なキーワードをうまく集約できるような言葉で、キャッチフレーズができればよい、ということによいと思う。
会長	強靱等のビジョンのレベル感をどこまで持っていくかが問題となるのではないかと。国から公表されている耐震基準等があるとは思いますが、どこまで実施するかが現実的な問題としてあるのではないかと。具体的には、災害時には安全・安心を実現することが望ましいが、想定外の事態が起きた場合には逃げろという話になるのではないかと考えている。そのあたりの考え方をどのように整理するかは経営に影響する点でもあるため、きちんと考えていかなければならないのではないかと。また、水循環が佐倉市の同規模団体にとっての新しいコンセプトであるとする、基本方針の4本柱に位置付けて整理したほうがよいのではないかと考える。基本施策までは現状押さえられているが、今後は紐付けられる具体的な事業まで落とし込んでいくことになるのか。
事務局	具体的な事業の落とし込みについては懇話会の中で議論していただく。現時点では上下水道ビジョンにて基本施策までを定めることとし、具体的

	<p>な事業については、別の経営計画として定める方法も想定している。市の基本計画についても具体的事業については、実施計画として別に定めているので、同じような枠組みを考えている。ただ、懇話会では、具体の事業をお示ししないと、施策のイメージがつかみにくいと思うので、具体の事業を含めて、全体的にご議論いただきたいと考えている。</p>
委員	<p>公民連携と官民連携の表現は統一した方がよいのではないかと。</p>
事務局	<p>表現については、事務局にて再度検討し、上下水道ビジョンにおいては、表現を統一することとする。</p>
会長	<p>水循環は上下水道事業を入口（水道）から出口（下水道）までで捉え、環境保全まで含んだ概念であるが、環境対策などかなり幅広い領域に関連しそうな概念でもある。そのため、整理が難しくなりそうな印象を受けるが、うまく整理ができそうか。</p>
事務局	<p>基本理念に水循環を持ってくるとなると、環境面の色合いが強くなることとなる。また、上下水道部以外の施策にも踏み込むことが懸念される。それについて上下水道ビジョンでどこまで触れられるかも問題となるので、水循環をどの程度まで打ち出すか問題である。そのあたりについては、今後検討し、整理していきたいと考えている。</p>
会長	<p>定刻となったので、本日の議事はこれで終了する。最後に、「3.その他」について事務局から願います。</p>
事務局	<p>第4回懇話会については、10月6日（火）の14時30分より今回と同じ会場で開催予定である。次回の懇話会においては、施策体系を具体的なものとしてご提示させていただくとともに、財政推計結果についてご提示させていただく。</p>
会長	<p>それでは、これで本日の会議を終了する。</p>